

2022年度
エコアクション21
環境経営レポート

(対象期間：2022年4月～2023年3月)

作成日：2023年4月20日



【目次】

1. 事業概要
 - 1-1 事業所名及び代表者
 - 1-2 沿革
 - 1-3 所在地
 - 1-4 環境管理責任者
 - 1-5 事業内容
 - 1-6 事業規模
 - 1-7 許可内容
 - 1-8 保有車両
 - 1-9 収集運搬料金
2. 対象範囲（認証・登録の対象範囲）
3. エコアクション21 実施体制
4. 環境経営方針
5. 環境経営目標
6. 環境経営目標2023年度（次年度以降）
7. 環境経営計画
8. 中間処理、再生資源の回収・収集運搬、再生資源の再生資源化等
9. 環境目標の実績
10. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容
11. 環境関連法規への違反、訴訟の有無
 - 9-1 該当する環境関連法規制等の遵守状況
 - 9-2 違反、訴訟の有無
12. 代表者による全体評価と見直しの結果

1. 事業概要

1-1 事業所名及び代表者

志賀興業株式会社
代表取締役 志賀 隆宏

1-2 沿革

設立：昭和40年1月6日
資本金：4,000万円

1-3 所在地

本社

〒181-0004
東京都三鷹市新川四丁目1番11号
TEL：0422-47-1414 FAX：0422-47-1433

小金井支店

〒184-0012
東京都小金井市中町二丁目15番20号
TEL：042-383-0404 FAX：042-316-1215

武蔵村山リサイクルセンター

〒204-0023
東京都武蔵村山市伊奈平二丁目97番地の5
TEL：042-520-8020 FAX：042-520-8026

1-4 環境管理責任者

業務課 業務係 西 裕次郎 TEL：0422-47-1414

1-5 事業内容

一般廃棄物及び産業廃棄物の収集運搬業、
産業廃棄物処分業、清掃事業、
再生資源の収集運搬、再生資源の再生資源化等

1-6 事業規模

売上高： 1469百万円 (2022年7月末)

従業員数： 139人

床面積：	本社	264m ²
	小金井支店	486m ²
	武蔵村山リサイクルセンター	882m ²

一廃・産廃収集運搬量： 74,987 t (2023年3月末)

産業廃棄物処分量： 1,968 t (//)

1-7 許可内容

① 一般廃棄物収集運搬業

許可自治体	許可番号	許可年月日	有効年月日
三鷹市	3三生ご第627号の3	令和4年4月1日	令和6年3月31日
武蔵野市	許可第3号	令和4年4月1日	令和6年3月31日
調布市	3調環ご発第3620002号	令和4年4月1日	令和6年3月31日
小金井市	小環ご発第234号 第114号	令和4年4月1日	令和6年3月31日
府中市	3府生ご許可第20号	令和4年4月1日	令和6年3月31日
立川市	立環ご許可第2号	令和4年4月1日	令和6年3月31日
東久留米市	4許可 第6号	令和4年4月1日	令和6年3月31日
多摩市	31多環ご第780号	令和4年4月1日	令和6年3月31日
稲城市	許可一廃 第2号	令和4年4月1日	令和6年3月31日
国立市	許可一廃 第14号	令和4年4月1日	令和6年3月31日
東村山市	許可第20号	令和4年4月1日	令和6年3月31日
日野市	許可第30号	令和4年4月1日	令和6年3月31日
八王子市	3八資廃一収第197号 許可第005号	令和4年4月1日	令和6年3月31日
狛江市	許可一廃 第18号	令和4年4月1日	令和6年3月31日
福生市	福生環発第19号-13	令和4年4月1日	令和6年3月31日
寄居町	第2005BU035号	令和4年5月1日	令和6年4月30日
国分寺市	許可 第5号	令和4年7月10日	令和6年7月9日
小平市	許可一廃 第16号	令和4年7月12日	令和6年7月11日
練馬区	第56号	令和4年8月1日	令和6年7月31日
西東京市	許可一廃 第31-1号	令和5年4月1日	令和7年3月31日
瑞穂町	瑞住環許可第27-1号	令和3年8月13日	令和5年8月12日
桐生市	桐生市 第128号	令和4年1月1日	令和5年12月31日

② 産業廃棄物収集運搬業

許可品目	許可自治体						
	東京都 (14種類)	埼玉県 (14種類)	神奈川県 (11種類)	山梨県 (7種類)	群馬県 (11種類)	茨城県 (14種類)	栃木県 (14種類)
燃え殻	○	○	-	-	-	○	○
汚泥	○	○	○	○	○	○	○
廃油	○	○	○	○	○	○	○
廃酸	○	○	-	-	-	○	○
廃アルカリ	○	○	-	-	-	○	○
廃プラスチック類	○	○	○	○	○	○	○
紙くず	○	○	○	-	○	○	○
木くず	○	○	○	○	○	○	○
繊維くず	○	○	○	-	○	○	○
動植物性残さ	○	○	○	○	○	○	○
ゴムくず	○	○	○	-	○	○	○
金属くず	○	○	○	○	○	○	○
ガラス・コンクリート・ 陶磁器くず	○	○	○	○	○	○	○
がれき類	○	○	○	-	○	○	○
許可番号	13-10- 011037	011-02- 011037	014-02- 011037	019-00- 011037	010-00- 011037	008-01- 011037	009-00- 011037
新規許可年月日	H3.9.1	H3.3.11	S50.11.5	H17.4.27	H30.12.25	H31.3.1	H31.3.28
有効年月日	R8.8.31	R8.3.10	R8.10.31	R7.4.26	R5.12.24	R6.2.29	R6.3.27

③ 産業廃棄物処分業

取扱品目	処分方法			
	破 碎	圧 縮	圧縮梱包	溶 融
廃プラスチック類	○	-	○	(廃発泡スチロールに限る)
紙くず	○	-	-	-
木くず	○	-	-	-
繊維くず	○	-	-	-
ゴムくず	○	-	-	-
金属くず	○	(あき缶に限る)	-	-
ガラス・コンクリート・ 陶磁器くず	○	-	-	-
がれき類	○	-	-	-

[許可番号] 13-20-011037

[新規許可年月日] H29.6.14

[有効年月日] R9.6.13

④ 積替え保管施設

所在地	東京都三鷹市新川四丁目1番11号
保管面積	691 m ²
許可品目	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、 ガラス・コンクリート・陶磁器くず、汚泥、がれき類 (水銀使用製品産業廃棄物を含む) 以上8種類
保管上限量	173.79 m ³
最大保管高さ	3.0 m

⑤ 中間処理施設

施設種類	産業廃棄物の種類	単独処理能力 (t/日)
破 碎 [施設許可番号] 産施第10046号	廃プラスチック類	5.84
	紙くず	5.04
	木くず	8.72
	繊維くず	2.00
	金属くず	14.88
	ゴムくず	8.24
	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	14.80
	がれき類	14.80
圧 縮	金属くず(あき缶に限る)	4.06
圧縮梱包	廃プラスチック類(廃ペットボトル)	4.60
	廃プラスチック類(ビニール)	2.05
溶 融	廃プラスチック類(廃発泡スチロールに限る)	0.40
所在地	東京都武蔵村山市伊奈平二丁目97番地の5	

⑥ 産業廃棄物処理工程図



1-8 保有車両

車両形式	台数	車両形式	台数
2t パッカー車	1	2t ダンプ車	3
2t パッカー車 CNG 車	1	3t ダンプ車 CNG 車	1
2t プレスパッカー車 CNG 車	2	2t 平ボディー車	3
3t パッカー車	27	2t パワーゲート付幌車	5
3t パッカー車 CNG 車	8	3t 平ボディー車	2
3t 計量器付パッカー車	7	3t パワーゲート付ダンプ車	5
3t 臭気装置付パッカー車	2	3t パワーゲート付ユニック車	1
6t プレスパッカー車	2	13t 平ボディー車	1
3t アームロール車	2	11t アームロール車	2
4t アームロール車	1	9.4t 天蓋付ダンプ車	1
8.5t t アームロール車	2	11t 天蓋付ダンプ車	3
2t バキュームカー	2	12t ジェットパック車	4
		軽トラック	2
合 計		90 台	※2023年4月1日現在

1-9 収集運搬料金

種類、量、形状、重量により大きく変わります。
 詳細については営業課までご相談下さい。(お見積り無料)

2. 対象範囲（認証・登録の対象範囲）

登録組織名：志賀興業株式会社

対象事業所：本社（東京都三鷹市新川四丁目1番11号）

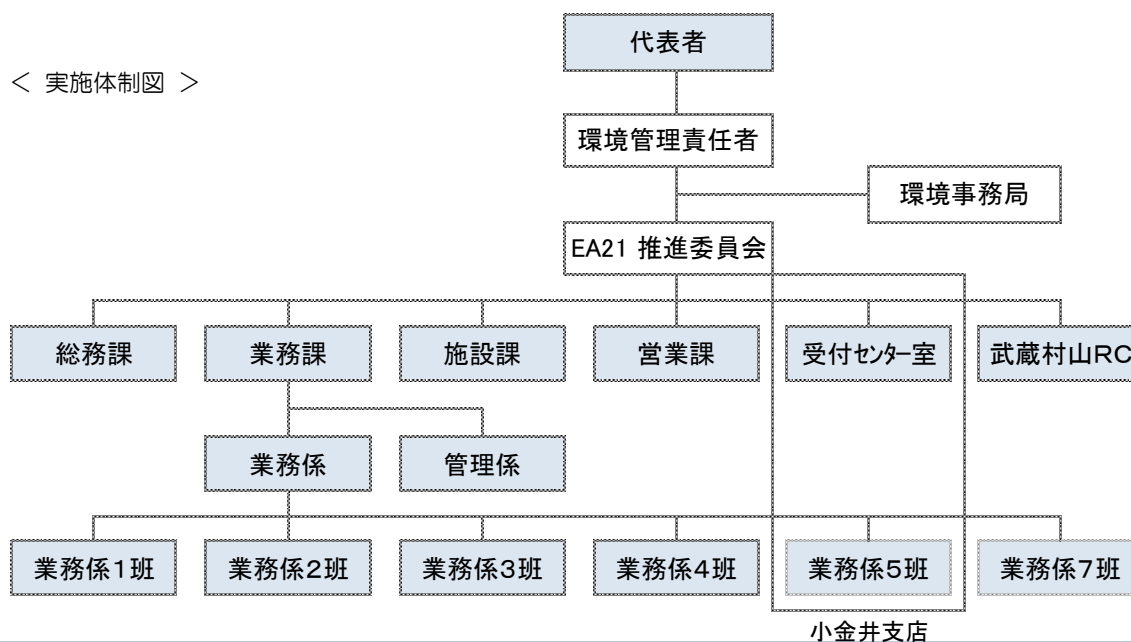
小金井支店（東京都小金井市中町二丁目15番20号）

武蔵村山リサイクルセンター（東京都武蔵村山市伊奈平二丁目97番地の5）

3. エコアクション 21 実施体制

職名	役割
代表者	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 環境経営に関する統括責任 ◇ 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員への周知 ◇ 環境管理責任者の任命 ◇ 環境経営システムの実施に必要な資源の確保 ◇ 環境経営目標・環境経営計画の承認 ◇ 代表者による全体の評価と見直しの実施 ◇ 環境経営レポートの承認 <p style="text-align: right;">◇チャンスと課題の明確化</p>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 環境経営システムの構築、実施、管理 ◇ 環境経営の取組結果を代表者へ報告 ◇ 環境経営目標・環境経営計画書を確認 ◇ 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ◇ 環境経営レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 環境管理責任者の補佐、EA21 推進委員会の事務局 ◇ 環境負荷と環境への取組状況の把握及び評価 ◇ 環境関連法規等の取りまとめ表の作成および最新版管理 ◇ 環境関連法規等の取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ◇ 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ◇ 環境に関する内部監査の計画・実施・報告 ◇ 環境教育・訓練の計画・実施 ◇ 環境文書の作成・環境記録の管理 ◇ 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 <p style="text-align: right;"> ◇ 環境経営の実績集計 ◇ 緊急事態の対応 ◇ 環境経営レポート作成、公開 </p>
EA21 推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 環境経営計画の審議 ◇ 環境経営実績の確認・評価
部門長	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ◇ 自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ◇ 自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ◇ 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ◇ 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

< 実施体制図 >



4. 環境経営方針

環境経営方針

現在、地球規模での環境政策が求められるなか、志賀興業株式会社では私たち一人一人がもっとあらゆる面から環境に留意し、継続的改善の取組が必要です。企業がまた日本から環境破壊を無くし、より良い地球環境を維持できるように世界に向けて発信しなければならないと思います。

私ども志賀興業株式会社では「クリーンで美しい自然環境」を目指し、ゴミを減らす活かす活動を推進しています。

- ◇ 社会的責任を全うするために、環境関連法を遵守します。
- ◇ 収集の際の分別、保管・積替え場の選別を徹底し、また、4Rを実施推進します。
- ◇ 地球温暖化防止のための省エネルギーと二酸化炭素・廃棄物・総排水量の排出量の削減に取り組みます。
- ◇ 自動車の大気汚染を考慮し、排ガス規制や騒音規制に適合した自動車への代替、天然ガス車等低公害車の購入の推進と、運転・運搬の合理化を図ります。

制定日 2001年10月1日

改定日 2018年10月1日

志賀興業株式会社

代表取締役 **志賀隆宏**

4R

- リサイクル (Recycle) = 再資源化・再利用：再び有効に利用できる資源に戻す
- リユース (Reuse) = 再使用：一度使われたものを何度でも繰り返し使う
- リデュース (Reduce) = 減量化促進：ゴミの排出量を減らすまたはゴミを出さない
- リフューズ (Refuse) = ムダの排除：要らないものは買わない、求めない

5. 環境経営目標

環境経営目標項目	基準年度	2020年度	2021年度	2022年度
	2020.4~ 2021.3	2020.4~ 2021.3	2021.4~ 2022.3	2022.4~ 2023.3
1. 二酸化炭素排出量の削減	767607 (kg-CO ²)	基準年度比 7% 増以内 790635	前年度比 現状維持 790635	前年度比 現状維持 790635
① 電力使用量の削減	105526 (kwh)	基準年度比 5% 増以内 110528	前年度比 現状維持 110528	前年度比 現状維持 110,528
② LPG使用量の削減 (プロパンガス)	395 (m ³)	基準年度比 現状維持 395	前年度比 現状維持 395	前年度比 現状維持 395
② 灯油使用量の削減	858 (L)	基準年度比 現状維持 858	前年度比 現状維持 858	前年度比 現状維持 858
④ 燃費の向上 (燃料使用量の削減)				
軽油燃費	3.49 (km/L)	基準年度比 3% 増以内 3.59	前年度比 3% 減以内 3.69	前年度比 現状維持 3.69
CNG燃費	3.25 (km/m ³)	基準年度比 現状維持 3.25	前年度比 3% 減以内 3.34	前年度比 3% 減以内 3.44
ガソリン燃費	11.37 (km/L)	基準年度比 3% 減以内 11.71	前年度比 3% 減以内 12.06	前年度比 3% 減以内 12.42
2. 水使用量の削減	2,009 (m ³)	基準年度比 3% 増以内 2,064	前年度比 3% 増以内 2,097	前年度比 現状維持 2,097
3. 廃棄物排出量の削減 (廃プラスチック)	600 (kg)	基準年度比 3% 増以内 615	前年度比 3% 増以内 663	前年度比 現状維持 663
4. 再資源化物 取扱量の増大				
① 発砲スチロール 取扱量	2024 (kg)	基準年度比 20% 増大 2428	基準年度比 5% 増大 2549	基準年度比 5% 増大 2676
② 金属 取扱量	88320 (kg)	基準年度比 5% 増大 92736	基準年度比 3% 増大 95518	基準年度比 3% 増大 98383
③ 空きビン 取扱量	38331 (kg)	基準年度比 現状維持 38,331	前年度比 現状維持 38,331	前年度比 5% 増大 40247
④ 空きカン 取扱量	26159 (kg)	基準年度比 現状維持 26,159	前年度比 現状維持 26,159	前年度比 5% 増大 27466
⑤ ペットボトル 取扱量	89160 (kg)	基準年度比 15% 増大 93036	基準年度比 5% 増大 97687	基準年度比 5% 増大 102571
5. グリーン購入の推進 購入比率の増大	20.9 (%)	基準年度比 現状維持 20.9	前年度比 現状維持 20.9	前年度比 現状維持 20.9

※ 電力使用量に対する二酸化炭素排出量の算出に用いた CO² 排出係数は、(株)エネット 0.442 (kg-CO²) /kwh 及び
大和ライフエナジア(株) 0.8 (kg-CO²) /kwh を用いて算出 (令和元年7月22日 環境省・経済産業省公表)

※ 空きビン・空きカン取扱量の目標値については、ビン・カンからペットボトルに移行するなどの時代の変化に応じ下方修正。

6. 環境経営目標（次年度以降）

環境経営目標項目	基準年度	2023年度	2024年度	2025年度
	2022.4~ 2023.3	2023.4~ 2024.3	2024.4~ 2025.3	2025.4~ 2026.3
1. 二酸化炭素排出量の削減	776124 (kg-CO ²)	基準年度比 5% 減以内 737317	前年度比 3% 減以内 715197	前年度比 現状維持 715197
③ 電力使用量の削減	117503 (kwh)	基準年度比 5% 増以内 123378	前年度比 現状維持 123378	前年度比 現状維持 123378
② LPG使用量の削減 (プロパンガス)	72.7 (m ³)	基準年度比 現状維持 72.7	前年度比 現状維持 72.7	前年度比 現状維持 72.7
④ 灯油使用量の削減	595 (L)	基準年度比 5% 減以内 565	前年度比 現状維持 565	前年度比 現状維持 565
④ 燃費の向上（燃料使用量の削減）				
軽油燃費	4.25 (km/L)	基準年度比 3% 増以内 4.37	前年度比 現状維持 4.37	前年度比 現状維持 4.37
CNG燃費	4.15 (km/m ³)	基準年度比 現状維持 4.15	前年度比 現状維持 4.15	前年度比 現状維持 4.15
ガソリン燃費	7.47 (km/L)	基準年度比 10% 増以内 8.21	前年度比 5% 増以内 8.62	前年度比 5% 増以内 9.05
2. 水使用量の削減	1791 (m ³)	基準年度比 3% 減以内 1737	前年度比 3% 減以内 1684	前年度比 現状維持 1684
3. 廃棄物排出量の削減 (廃プラスチック)	371 (kg)	基準年度比 3% 減以内 359	前年度比 現状維持 359	前年度比 現状維持 359
4. 再資源化物 取扱量の増大				
⑥ 発砲スチロール 取扱量	9820 (kg)	基準年度比 5% 増大 10311	基準年度比 3% 増大 10620	基準年度比 現状維持 10620
⑦ 金属 取扱量	311480 (kg)	基準年度比 3% 増大 320824	基準年度比 3% 増大 330479	基準年度比 現状維持 330479
⑧ 空きビン 取扱量	60150 (kg)	基準年度比 3% 増大 61954	前年度比 現状維持 61954	前年度比 現状維持 61954
⑨ 空きカン 取扱量	78380 (kg)	基準年度比 現状維持 26,159	前年度比 現状維持 26,159	前年度比 現状維持 27466
⑩ ペットボトル 取扱量	169130 (kg)	基準年度比 5% 増大 177586	基準年度比 5% 増大 186465	基準年度比 3% 増大 192058
5. グリーン購入の推進 購入比率の増大	20.3 (%)	基準年度比 現状維持 20.3	前年度比 現状維持 20.3	前年度比 現状維持 20.3

※ 電力使用量に対する二酸化炭素排出量の算出に用いた CO² 排出係数は、(株)エネット 0.442 (kg-CO²) /kwh 及び
大和ライフエナジア(株) 0.8 (kg-CO²) /kwh を用いて算出 (令和元年7月22日 環境省・経済産業省公表)

※ 空きビン・空きカン取扱量の目標値については、ビン・カンからペットボトルに移行するなどの時代の変化に応じ下方修正。

7. 環境経営計画

(取組み期間 : 2022年4月~2023年3月)

環境経営目標	環境活動の具体的な取組み	実施責任者
1. ① 電力使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 不要照明の消灯 照明は必要な箇所のみ ◇ 空調の適温化 (冷房 28℃ 程度、暖房 20℃ 程度) ◇ クールビズ、ウォームビズの奨励及び積極的推進 ◇ 空調設備の定期的な点検・整備 ◇ 外気、太陽光の導入 	環境管理 責任者
② 燃費の向上 (燃料使用量の削減)	<ul style="list-style-type: none"> ◇ エコドライブの徹底 ◇ 車両の定期的な点検・整備 ◇ 収集運搬ルートの効率化 	業務課 車両課 各担当者
③ 灯油使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 短時間および効率の良い洗車を心がける ◇ 高圧洗浄機のお湯の使用は必要最小限にする 	業務課 車両課 各担当者
④ LPG使用量の削減 (プロパンガス)	<ul style="list-style-type: none"> ◇ お湯のムダ使いをしない ◇ ガスストーブはこまめに消す 	環境管理 責任者
2. 水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 節水を考慮した洗車 ◇ 手洗い時の節水の徹底 ◇ 水道配管の漏水の定期的点検 (半年に1回) 	環境管理 責任者
3. 廃棄物排出量の削減 (廃プラスチック)	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 再資源化物の分別の徹底 ◇ 4Rの推進 	環境管理 責任者
4. 再資源化物取扱量の増大	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 回収した資源化物の徹底した分別 ◇ 新規顧客の開拓 	営業課 課長
5. グリーン購入の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◇ エコマーク及びグリーンマーク製品の積極的購入 ◇ 物品購入時のエコ商品カタログの活用 	事務局 責任者

8. 中間処理

(期間 : 2022年4月~2023年3月)

		廃棄物の種類	処理方法等	単位	処理量・処分量
中間処理		廃プラスチック	破碎、圧縮梱包、溶融	t	1556.86
中間処理		金属くず	破碎、選別後圧縮	t	311.48
中間処理		ガラ陶	破碎	t	60.15
中間処理		木くず	破碎	t	39.75
中間処理	再資源化等	廃プラスチック	スラグ、マテリアルリサイクル〔委託〕	t	1266.91
中間処理	再資源化等	木くず	再生原料〔委託〕	t	39.75
中間処理	再資源化等	ペットボトル	RPF(固形燃料)〔売却〕	t	169.13
中間処理	再資源化等	廃プラ(ビニール)	再生原料・商品〔売却〕	t	0.00
中間処理	再資源化等	廃プラ(発泡)	再生原料・商品〔売却〕	t	9.82
中間処理	再資源化等	カン(アルミ)	再生原料〔売却〕	t	38.27
中間処理	再資源化等	カン(スチール)	再生原料〔売却〕	t	40.11
中間処理	再資源化等	金属くず	再生原料〔売却〕	t	233.10
中間処理	再資源化等	ビン	再生原料〔売却〕	t	60.15
中間処理	再資源化等	小計		t	1857.24
		合計		t	3825.48

8. 再生資源の回収・収集運搬、再生資源の再生資源化等

(期間 : 2022年4月~2023年3月)

再生資源の種類		回収・収集等運搬量	単位
1. ① 発泡スチロール		◇ 11.68	t
② 金属		◇ 413.03	t
③ 空きびん		◇ 70.88	t
④ 空きカン		◇ 94.36	t
⑤ ペットボトル		◇ 158.67	t
再生資源の再生資源化等	処理又は加工等方法	再資源化量	単位
2 ① 発泡スチロール	溶融	◇ 11.68	t
② 金属	破砕	◇ 413.03	t
③ 空きびん	選別後圧縮	◇ 70.88	t
④ 空きカン	選別後圧縮	◇ 94.36	t
⑤ ペットボトル	圧縮梱包	◇ 158.67	t


9. 環境経営目標の実績

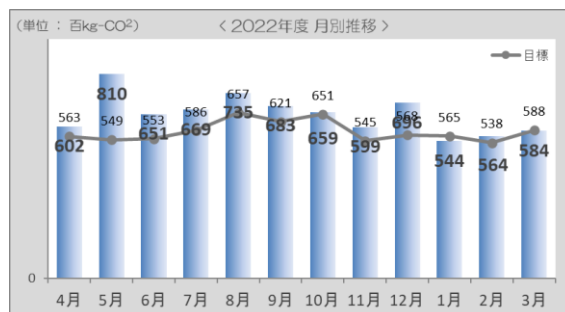
環境経営目標	基準年度	2022年度		評価
	2020.4~ 2021.3	目標	実績	
1. 二酸化炭素排出量の削減	767607 (kg-CO ²)	基準年度比 7% 増以内 790635	776124	◎
① 電力使用量の削減	105526 (kwh)	基準年度比 5% 増以内 110528	117503	△
② LPG使用量の削減 (プロパンガス)	395 (m ³)	基準年度比 現状維持 395	72.7	◎
⑤ 灯油使用量の削減	858 (L)	基準年度比 現状維持 858	595	◎
④ 燃費の向上 (燃料使用量の削減)				
軽油燃費	3.49 (km/L)	基準年度比 6% 減以内 3.69	4.25	◎
CNG燃費	3.25 (km/m ³)	基準年度比 6% 減以内 3.44	4.15	◎
ガソリン燃費	11.37 (km/L)	基準年度比 9% 減以内 12.42	7.47	×
2. 水使用量の削減	2009 (m ³)	基準年度比 6% 増以内 2097	1791	◎
3. 廃棄物排出量の削減 (廃プラスチック)	600 (kg)	基準年度比 6% 増以内 633	371	◎
4. 再資源化物 取扱量の増大				
① 発砲スチロール 取扱量	2024 (kg)	基準年度比 30% 増大 2676	9820.	◎
② 金属 取扱量	88320 (kg)	基準年度比 5% 増大 98383	311480	◎
③ 空きビン 取扱量	38331 (kg)	基準年度比 5% 増大 38,331	60150	◎
⑥ 空きカン 取扱量	32,265 (kg)	基準年度比 5% 増大 40247	78380	◎
⑦ ペットボトル 取扱量	89160 (kg)	基準年度比 25% 増大 102571	169130	◎
5. グリーン購入の推進 購入比率の増大	20.3 (%)	基準年度比 現状維持 20.9	20.3	△

※ 評価欄は、目標達成で◎印、目標未達成だが目標値の10%以内は△印、目標値の10%以上は×印を評価結果として記入。

※ 電力使用量に対する二酸化炭素排出量の算出に用いたCO²排出係数は、(株)エネット 0.442 (kg-CO²) /kwh 及び
大和ライフエナジア(株) 0.8 (kg-CO²) /kwh を用いて算出 (令和元年7月22日 環境省・経済産業省公表)

10. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

 二酸化炭素排出量の削減



<環境経営計画>


- ・ 電力使用量の削減
- ・ 軽油、CNG、ガソリン使用量の削減
- ・ 灯油使用量の削減
- ・ LPG使用量の削減

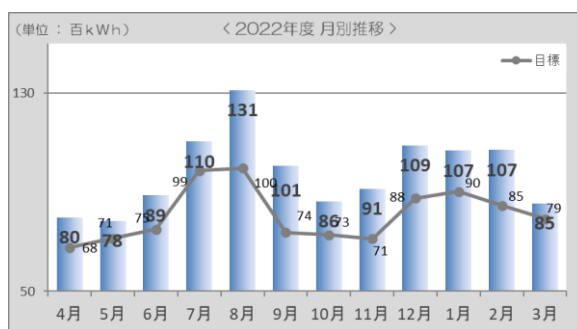
<取組結果と評価>

- ・ 収集件数の増加に伴い、収集運搬時の燃料使用量や工場内の機械稼働率が上がり、電力使用量が増加したことが原因。
軽油、灯油の使用量増加、みまもりを活用し燃費の向上、洗車は効率的に行うなど積極的な取組んでいく。

<次年度の取組内容>

- ・ 業務量増加に伴い、電気や化石燃料の使用量がいずれも増加しており、二酸化炭素排出量も増加傾向にある。削減への取組みではなく、増加を抑えていく取組みになるが、増加の原因を正しく認識し最小限の増加に抑えられるよう取組みを継続する。

 電力使用量の削減



<環境経営計画>

- ・ 不要照明の消灯
- ・ 空調の適温化 (冷房 28℃、暖房 20℃)
- ・ クールビズ、ウォームビズの奨励及び積極的推進
- ・ 空調設備の定期的な点検、整備
- ・ 外気、太陽光の導入


<取組結果と評価>

- ・ 処分量増加に伴い、破碎機等の機械稼働率が上昇し、工場の電力使用量が対前年度 60%増、全体としては 38%増となった。全事業所で節電への取組みを継続する。

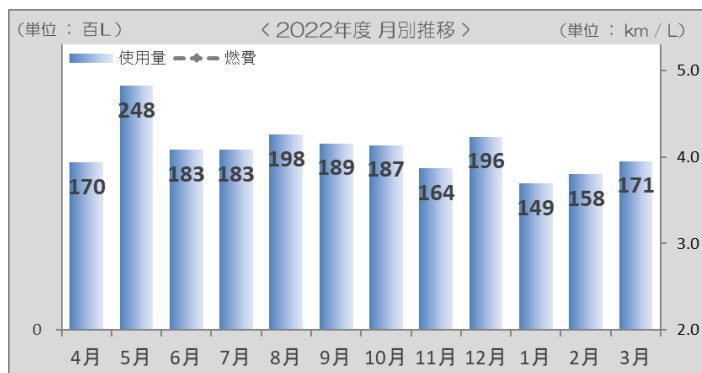
<次年度の取組内容>

- ・ 処分量が増加傾向にあり、今後の処分量についても増加が予想される。工場内設備の使用電力量の確認に重点をおき、効率的な運用に努めるとともに、引続き全事業所で節電への取組みを継続する。

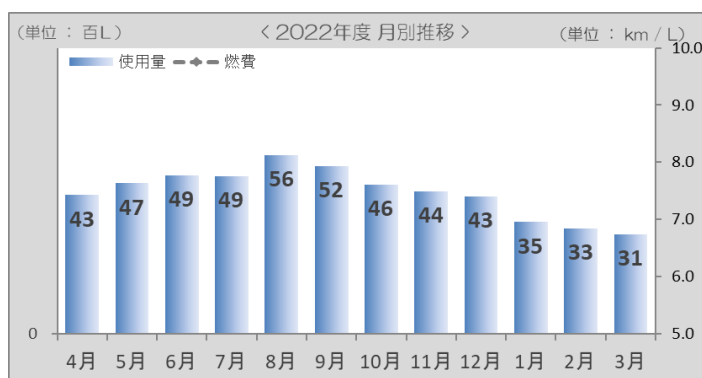
10. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

 燃費の向上（燃料使用量の削減）

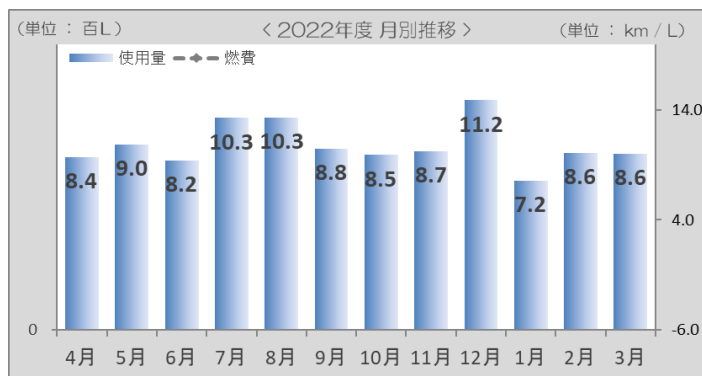
<軽油>



<CNG>



<ガソリン>



<環境経営計画>

- ・エコドライブの徹底
- ・車両の定期的な点検・整備
- ・収集運搬ルート of 効率化

<取組結果と評価>

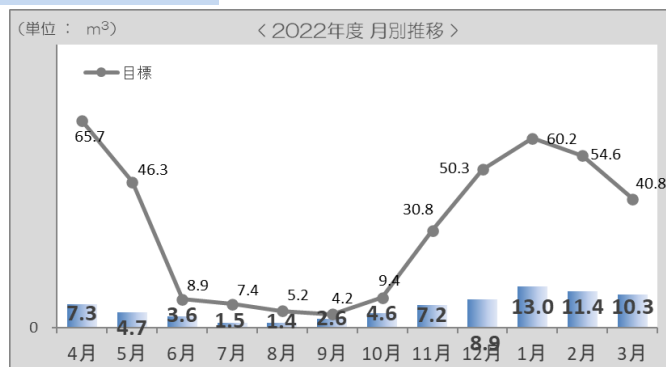
- ・対前年度 1.1～2.7%の割合で各燃費が向上した。表彰制度を実施し、エコドライブ・安全運転の徹底に取組んできた事が定着している結果であり、評価できる。
- ・走行距離：対前年度 7%増（約6万km 増）
燃料使用量：対前年度 23%減（約6万ℓ減）

<次年度の取組内容>

- ・燃費が悪くなる傾向がある夏場に特に重点をおき、現状維持を目標に引続き取組みを継続する。

10. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

 LPG使用量の削減



<環境経営計画>


- ・お湯のムダ使いをしない
- ・

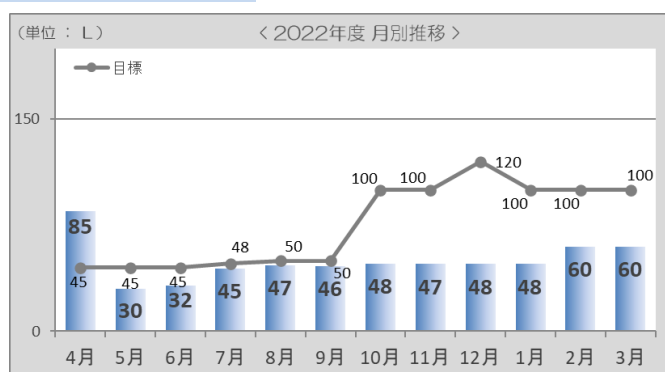
<取組結果と評価>

- ・支店のみになり使用量が削減された。

<次年度の取組内容>

- ・お湯を使う際の無駄を抑えるよう、不要時の使用を徹底し、引き続き取組みを継続する。

 灯油使用量の削減



<環境経営計画>

- ・短時間及び効率の良い洗車を心がける
- ・高圧洗浄機のお湯の使用は必要最小限にする


<取組結果と評価>

- ・対前年度 20%減。収集件数増加に伴い、本社パッカー車等の車両の洗車回数が増え、高圧洗浄機のお湯の使用量が増えた事が原因。水道水の使用量は削減されており、効率の良い洗車は徹底されているので、必要な中でもムダなお湯の使用を抑えていくことが今後の課題。

<次年度の取組内容>

- ・洗車時のお湯の使用について、必要最小限を再度徹底し、引き続き取組みを継続する。

10. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

 水使用量の削減



<環境経営計画>

- ・節水を考慮した洗車
- ・手洗い時の節水の徹底
- ・水道配管の漏水の定期的点検 (半年に1回)

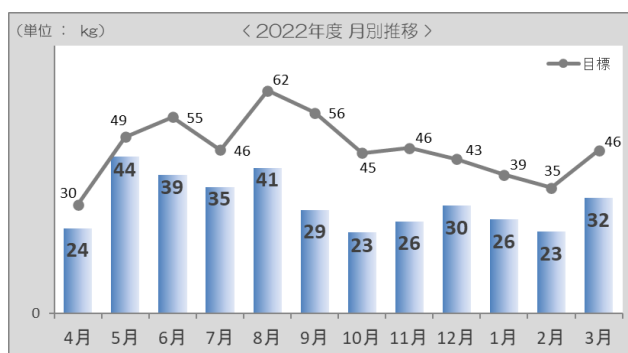
<取組結果と評価>

- ・業務量が増加し、電気や化石燃料の使用量が軒並み増加傾向にある中、水使用量については、前年度に比べ削減されている。収集運搬量の増加に伴い、洗車回数も増えているはずだが、削減されたという結果は、洗車時の節水等、削減の取組みが定着してきている結果であり、評価できる。

<次年度の取組内容>

- ・引き続き節水活動を推進し、継続的に実施していく。

 廃棄物排出量の削減(廃プラスチック)



<環境経営計画>

- ・再資源化物の分別の徹底
- ・4Rの推進

<取組結果と評価>

- ・従業員増加に伴い、対前年度、現状維持。人員増加率が対前年度 18%減としては、まずまずの結果となった。

<次年度の取組内容>

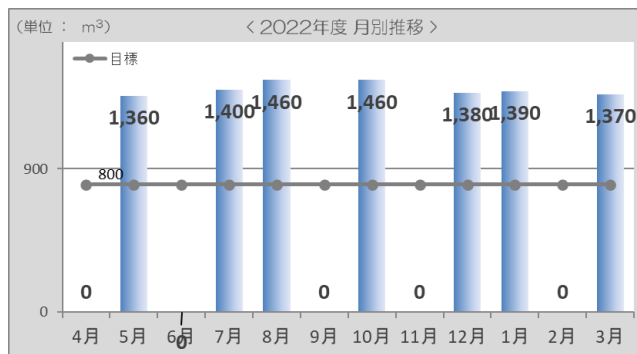
- ・昼食時のお弁当容器が排出量のほとんどを占めるので、引き続き分別等、できる事は徹底して行い、ストレスが掛からない範囲で、ごみの出ない食事の推進を継続的に実施していく。

10. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

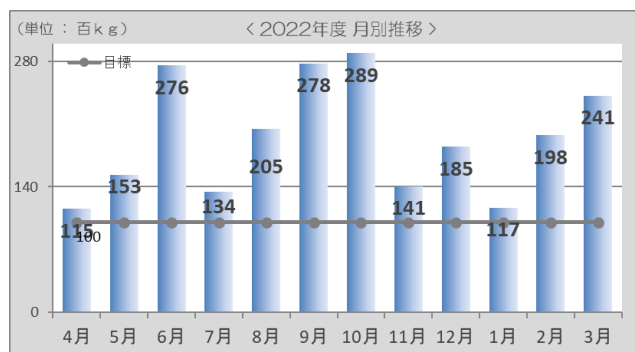


再資源化物 取扱量の増大

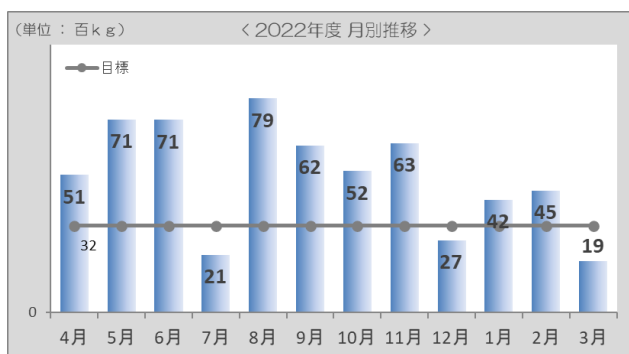
<発砲スチロール>



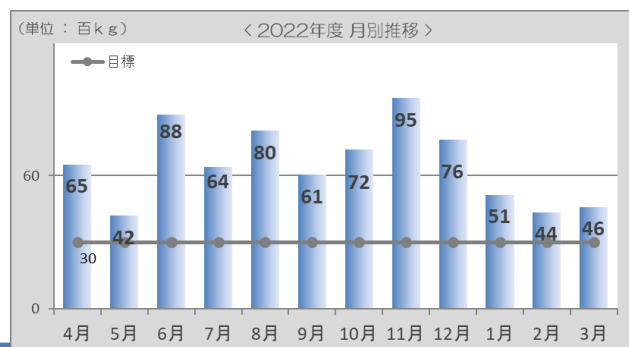
<金属>



<空きビン>

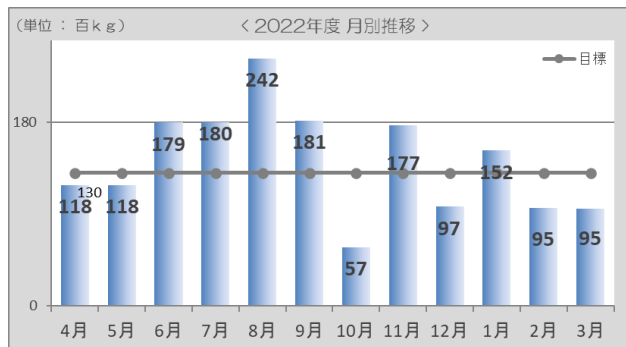


<空きカン>



10. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

＜ペットボトル＞



＜環境経営計画＞

- ・回収した資源化物の徹底した分別
- ・新規顧客の開拓


＜取組結果と評価＞

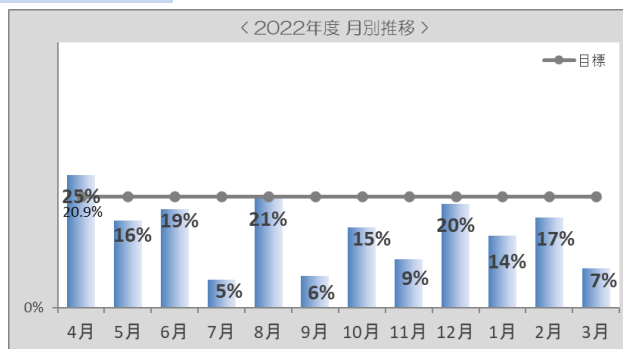
- ・収集件数増加に伴い、再資源物の取扱量が対前年度 24%増。空きカンを除き、それぞれ前年度増の結果となった。

発砲スチロール	：	6%増	／	(対前年度)
金 属	：	240%増	／	(対前年度)
空 き ビ ン	：	210%増	／	(対前年度)
空 き カ ン	：	250%増	／	(対前年度)
ペ ッ ト ボ ト ル	：	30%増	／	(対前年度)

＜次年の取組内容＞

- ・空きカンについては、ペットボトルへの市場の変化もあり減少傾向が予想される。今年度の伸び率が好調だったので、維持できるよう、引き続き取組みを継続する。

 グリーン購入の推進



＜環境経営計画＞

- ・エコマーク及びグリーンマーク製品の積極的購入
- ・物品購入時のエコ商品カタログの活用

＜取組結果と評価＞

- ・目標達成率 85%で目標未達成。
- ・前年度減で目標未達とはなったが、購入時のエコ商品選択の意識付けが 定着している結果といえる

＜次年度の取組内容＞

- ・グリーン購入の比率を上げるよう、引き続き、価格に折り合いをつけながら、取組みを継続する。

1 1 . 環 境 関 連 法 規 へ の 違 反 、 訴 訟 の 有 無

1 1-1 該 当 す る 環 境 関 連 法 規 制 等 の 遵 守 状 況

法 律 名	遵 守 状 況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	○
三鷹市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例	○
小金井市廃棄物の処理及び、再利用の促進に関する条例	○
道路法	○
道路運送法	○
道路運送車両法	○
道路交通法	○
特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）	○
フロン排出抑制法	○
都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	○
消防法	○
火災予防条例	○
騒音規制法	○
振動規制法	○

9-2 違 反 、 訴 訟 の 有 無

法規制等の一覧表を作成し、定期的に遵守状況をチェックすることで、違反等の無いことを自主的に確認しました。尚、これらの法規制に対する関係当局からの違反の指摘及び関連する訴訟等は過去3年間ありません。

12. 代表者による全体評価と見直しの結果

	項目	変更の必要性
1	環境方針の見直し	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
2	環境目標	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
3	環境活動計画	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
4	環境経営システムの各要素	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
5	実施体制の見直し	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

<全体評価>

業務量が増加傾向にある中で、環境負荷を削減することは容易ではありませんが、増加の原因を正しく認識し、改善していく為のPDCAシステムの運用になるよう取り組むことが重要です。業務量増加の為とすべて判断するのではなく、問題を細分化し早めの対策を取り、積極的に改善していく事を期待します。